悔しさを残して 2026 シーズンを終える

San-Ei Gen with B-Max（チーム代表 組田龍司）は、11 月 21～22 日、鈴鹿サーキットで行われた、全日本スーパーフォーミュラ選手権第 11、12 戦「JAF 鈴鹿グランプリ」に参戦し、野村勇斗選手が、予選では 4 位を得るなど速さを見せながらも、決勝はリタイア、12 位完走と、最後まで納得できる結果を得られずにシーズンを終えることになりました。

寒波の影響で気温は下がりましたが、シーズン最後の大会は、好天に恵まれ絶好のレース日和となりました。相性の良い鈴鹿でベストリザルトを得るべく、気合い十分でサーキット入りし、金曜日に行われたフリー走行では、午前の走行で 6 位、午後は 2 位と好感触を得て、土曜日の予選に臨みました。

■第 11 戦予選（11 月 21 日（土）午前 9 時 50 分～10 時 35 分）

Q1 グループ A に出走した野村選手は、バランス良くタイヤに熱を入れるため、1 周した後ピットに入ってリアタイヤのみを交換。3 周のウォームアップランの後、最後方でアタックに入り、岩佐選手に次ぐ 2 位のタイムをマーク。Q2 進出を決めました。

Q2 でも、Q1 と同じ流れで、最後にアタックに入った野村選手は、「小さなミスはありましたが、出し切りました」と、岩佐、野尻、太田選手に続く 4 位に入り、今季 5 度目となる 2 列目グリッドを獲得しました。





San-Ei Gen F.F.I.

リリースに関するお問い合わせ先 B-Max Racing Team 広報担当：北島 s-kitajima@b-maxracing.co.jp

	ドライバー	セッション		タイム（順位）	Point（累計）
50 号車	野村勇斗	予選	Q1	1 分 37 秒 848（ 2）	0（ 6）
			Q2	1 分 37 秒 308（ 4）	
			総合順位	4 位	

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：14 度、路面温度：19 度

■第 11 戦決勝（11 月 21 日（土）午後 2 時 25 分～ 31 周）

4 番グリッドからスタートした野村選手は、トップ 3 台にやや離されながらもポジションをキープ。10 周目にデグナーカーブでストップした車両があり、セーフティカーが導入されました。このタイミングでピットに入りますが、この周の途中からシフトダウンできないトラブルが出ており、マシンをガレージに入れ、パーツの交換作業に入りました。

勝負権は失ってしまいましたが、明日につなげるためにもコースに復帰すべく作業を進め、終盤トップが 25 周目に入ったところでコースに戻りました。結果は周回数不足で完走にはなりませんでしたが、最終周に自身のベストタイムを更新。レース中のベストラップで、全体 4 番手となるタイムをマークする走りを見せ、チェッカーを受けました。





	ドライバー	セッション		順位／タイム（順位）	Point（累計）
50 号車	野村勇斗	決勝	順位	DNF	0（ 6）
			ベストタイム	1 分 39 秒 968（ 4）	

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：15 度、路面温度：18 度

リリースに関するお問い合わせ先 B-Max Racing Team 広報担当：北島 s-kitajima@b-maxracing.co.jp

■第 12 戦予選（11 月 22 日（日）午前 9 時 15 分～10 時 00 分）

第 11 戦と同じ Q1 グループ A に出走した野村選手は、昨日と同様、一旦ピットに入ってリアタイヤのみを交換。牧野選手に次ぐ 2 位で Q2 に駒を進めました。

Q2 も同じルーティンで進め、第 11 戦以上のポジションを狙いました。コース前半のセクター2 では全体ベストタイムをマークするなど、良い流れでしたが、コース後半のフルブレーキング時に挙動が落ち着かない症状が出て、タイムロス。8 番グリッドから決勝に臨むことになりました。





	ドライバー	セッション		タイム（順位）	Point（累計）
50 号車	野村勇斗	予選	Q1	1 分 37 秒 434（ 2）	0（ 6）
			Q2	1 分 37 秒 128（ 8）	
			総合順位	8 位	

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：16 度、路面温度：17 度

■第 12 戦決勝（11 月 22 日（日）午後 1 時 50 分～ 31 周）

野村選手は、グリッドポジションの 8 位をキープしてレースを進め、12 周目にタイヤ交換。コースに戻りますが、レースペースが思うように上がらずに苦しい走りを強いられました。レース後半になっても状況は変わらず、迎えた 27 周目、NIPPO コーナーで直前を走っていた車両がスピンをして野村車のリアタイヤに接触。このアクシデントで、マシンバランスが狂ってしまいましたが、何とか残り 4 周を走り切って、12 位でフィニッシュしました。

San-Ei Gen F.F.I.

リリースに関するお問い合わせ先 B-Max Racing Team 広報担当：北島 s-kitajima@b-maxracing.co.jp





	ドライバー	セッション		順位／タイム（順位）	Point（累計）
50 号車	野村勇斗	決勝	順位	12 位	0（ 6）
			ベストタイム	1 分 40 秒 150（18）	

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：13 度、路面温度：18 度

2026 年シーズンを終了し、ドライバーズランキングは 19 位、チームランキングは 15 位と、不本意な結果に終わりました。それでも予選では 12 戦中 10 戦で Q2 に進出。2 列目グリッドを 5 回（予選 3 位 2 回、4 位 3 回）獲得するなど、速さを見せることができました。

チームが目標とする「日本一強いチーム」への道のりは険しいですが、来シーズンもそこに一歩でも近づけるよう努力していきます。応援ありがとうございました。

■チーム監督 武藤英紀コメント

「最終戦は、終盤、スピンした前車との接触でダメージがあり、少しペースが落ちてしまいました。ただ、決勝のペースがあまり良くなかったので、行けても 10 位くらいだったと思います。第 11 戦もトラブルが出てしまい、今シーズンを象徴するような週末でした。

SF の監督として初のシーズンでしたが、責任の重さを感じつつも、チャレンジングな 1 年でした。予選では速さを見せられたのは大きな進歩でしたが、決勝はトラブルなどでレースを失うことが多く、チームの士気を保ちながらまとめていく難しさを感じました。

1 年戦って、課題や補強すべきところは見えてきましたし、次につながる 1 年になったと思います。サポートいただいた方々、ファンの皆さまに感謝いたします」

San-Ei Gen F.F.I.

リリースに関するお問い合わせ先 B-Max Racing Team 広報担当：北島 s-kitajima@b-maxracing.co.jp

■アドバイザー 大津弘樹コメント

「今週末は車のポテンシャルは高かったと思います。予選でそれを示せましたが、決勝はトラブルやアクシデントなどで、思うような結果にはなりませんでした。展開次第では順位を上げられる可能性もありましたが、レースペースに関しては改善が必要ですね。

SF での自分の経験から得たものを助言する役割で 1 年間帯同しましたが、一新された体制の中でチーム運営に携わり、監督やスタッフたちと協力してレースを組み立てていく過程など、多くのことを学べました。やりがいのある 1 年でした」

■チーフエンジニア 今関佳斗コメント

「最後のレースは、ロングランのペースや、抜き切るだけの速さが足りませんでした。第 11 戦はリタイアするまでペースは良かったので、その先が見られなかったのが心残りです。

今シーズンは新しい体制のなかで、SF で初めてチーフエンジニアを務めましたが、気が休まることはなかったです。予選では速さを見せたと言ってもらえますが、予選だけでなく決勝でも安定して上位にいきたかったですね。結果がすべての世界ですので、自分自身まだまだだと感じました。でも、継続していれば今年より来年、来年より再来年と良くなるはずですし、結果が残らないと次につながらないと思っていますので、来年はしっかり結果を求める年にしたいと思います」

■ドライバー 野村勇斗 選手コメント

「最終戦は、決勝のペースも第 11 戦ほど良くなかったですし、終盤に目の前でスピンした車両を避けきれず接触してしまうという展開で終わってしまいました。ポイントを狙える位置にいただけに、取りきれなかったのは本当に悔しいです。

SF のルーキーイヤーでしたが、コンスタントに Q2 に行くという目標は達成できましたし、何度か 2 列目グリッドも獲得でき、速さはアピールできたと思います。ただ、決勝は、最後まで噛み合いませんでした。結果を残せなかったのは心残りですが、F4 から一緒の今関エンジニアと SF デビューシーズンを迎え、1 年間戦えたことは貴重な経験でした」

San-Ei Gen F.F.I.

リリースに関するお問い合わせ先 B-Max Racing Team 広報担当：北島 s-kitajima@b-maxracing.co.jp

Photo Gallery













San-Ei Gen F.F.I.
Honda RACING
Honda FORMULA DREAM PROJECT
Honda RACING SCHOOL SUZUKA
MOTUL
AYASE PRIDE
B-Max 株式会社 Spirit of Byoubugaura
やまぐち呼吸器内科・皮膚科クリニック
HM HEALTH MANAGEMENT
THANKS AI
SPK
tanabe
DEGIMO
sun-m industry
KAGAWA 株式会社八光技研
プロトエンジニアリング株式会社
株式会社 ニッタンホームサービス
blanche conseiller d'essence
ENKEI
G-COAT
B-Max engineering
B-Max Custom Factory
Hand work

リリースに関するお問い合わせ先 B-Max Racing Team 広報担当：北島 s-kitajima@b-maxracing.co.jp